

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文庫	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイル ウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて 西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に 免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のNMP-NAT の結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイ ル神経変性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実 施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要で ある。
												A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へ のウイルス排泄期間および排泄量と、アラニアミトラン スフェーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連 を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間 (中央値)便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイ ルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定 量できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、 ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型 1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差は なかった。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行の PRISM®HBcおよび新規PRISM®HbcCore検査を用いた HBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異 性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを 示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® HbcCore の方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検 体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs 検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行っ て、検査結果を比較した。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 2028-2029	2004年10月、神奈川県赤十字血液センターは輸血後 HBV感染疑い症例の報告を受けた。供血当時の検査で は50ブール/NAT陰性だったにも関わらず、凍結検体が HBV個別NAT陽性となった供血者を特定した。この供血 者の凍結血液40検体について個別NATを行ったところ、 陰性と陽性があった。合計6例の輸血後HBV感染が特定 された。この供血者におけるHBV DNA量は50コピー /mL未満から200コピー/mLの間で増減していた。供血前 に個別NATを行ったとしても、全てのHBVキャリアを排除 できないことが示された。